

平成 22 年度 2次評価（基本施策評価）シート

基本施策名	35	文化・芸術により、豊かな感性と創造性を育む	評価責任者 (基本施策主管課長)	企画課長 増田 基生
-------	----	-----------------------	---------------------	---------------

基本施策の現状分析及び意図

基本施策の体系	基本目標	意図
	政 策	生涯を通じて生きがいがあるまちづくり
①	市民意識調査結果	<p>②左記結果に対する現状分析・市民との協議結果</p> <p>基本施策「文化・芸術により、豊かな感性と創造性を育む」に対する市民意識調査の結果は、必要度は全体の34.5%で、最も多い回答は「今のままでよい」と回答した49.3%となっている。満足度は全体の73.7%で、そのうち「普通である」と答えた人は64.6%と最も高い結果となっている。一方、基本施策における生活課題として「豊かな文化・芸術に触れることができる」という意識調査(満足度調査)では、「そう思わない」(不満)が「そう思う」(満足)を上回っており、過去3年間で「不満足」が4.8ポイント上昇している。男女別の「不満足」では、「男性」の方が高く、年齢層では50歳代の「不満足」が最も高い。</p>
③	基本施策の現状と課題	<p>①歴史・文化などに触れ、学習する環境整備の充実を図るための拠点となる施設がない。</p> <p>②文化・芸術活動を行う年齢層が高齢化しているため、その受け手となる人材が不足している。</p> <p>③幅広い年齢層への文化芸術意識の高揚をはかるための文化振興策の充実が必要である。</p> <p>④文化芸術の活動の場の確保と支援が必要である。</p>
④	基本施策の意図、今後の展望	<p>市民一人ひとりが日常的な暮らしの中で自らが文化芸術に触れる機会をつくり、また、学習や交流の機会などの環境づくりなどによる更なる意識の高揚と豊かな感性と創造性を育むことで、地域の歴史性や文化性を活かした文化芸術の振興を目指す。そのために、</p> <p>①新芭蕉翁記念館の整備促進、②市民の自発的で自主的な文化活動への支援、③文化芸術を活動する場の充実、④松尾芭蕉翁などの郷土の偉人顕彰 など</p>

⑤基本施策指標の検討・設定

現況の課題、意図、今後の展望のキーワード	考えられる基本施策指標候補	重点化
俳句のくにつくり拠点施設整備(仮称「芭蕉翁記念館」)	新たな文化創造拠点施設の整備(事業の進捗率)	1
俳句の普及(芭蕉祭)	芭蕉翁顕彰(俳句投げ句)	2
市民文化祭への参加	文化芸術を発表する場(参加団体数)	3
市民美術展覧会への参加	文化芸術を発表する場(出展者数)	4

基本施策指標名	単 位	過年度実績		評価年度		目標値		ベンチマーク	指標の説明
		H20	H21	H22	H25	H30			
1 事業の進捗率	目 標	%		25	30	80			
	実 績	%							
	達成率	%	#DIV/0!	0.0					
2 芭蕉翁顕彰俳句投げ句数	目 標	句	60000	60000	56000	58000	60000		
	実 績	句	56418	51192					
	達成率	%	94.0	85.3					
3 参加団体数	目 標	団体	100	100	100	100	100		
	実 績	団体	88	91					
	達成率	%	88.0	91.0					
4 出展者数	目 標	人	180	180	180	200	220		
	実 績	人	151	153					
	達成率	%	83.9	85.0					

⑥基本施策構成事務事業の評価

担当課	I D	事 業 名	改善余地の有無	事業費(人件費込、単位:千円)			重点化
				H21 決算額	H22 予算額	H23 所要額	
1 企画総務部 企画課	118-1	文化振興一般経費(だんじり・鬼行列運営助成金)	無	9,090	9,090	9,090	
2 企画総務部 企画課	118-2	文化振興一般経費(市民管弦楽団運営補助事業)	無	180	920	1,020	△
3 企画総務部 企画課	119-1	美術展覧会運営経費(市民美術展覧会)	有	3,079	3,156	3,156	
4 企画総務部 企画課	119-2	美術展覧会推進経費(子ども文化フェスティバル)	有	1,470	1,400	1,400	△
5 企画総務部 企画課	120	文化祭開催経費	有	3,544	3,412	3,412	△
6 伊賀支所 振興課	873	先賢顕彰費	無	292	317	317	
7 企画総務部 企画課	130	俳句のくにつくり拠点施設建設事業	無	2,435	4,230	4,295	
8 企画総務部 企画課	130-2	俳句のくにつくり拠点施設建設事業	無	0	5,240	40,348	
9 企画総務部 企画課	125	芭蕉祭執行等経費	有	13,646	13,889	13,890	
10 企画総務部 企画課	126	しぐれ忌執行等経費	無	1,035	1,035	1,020	
(以下 続紙)							
事業費 小計					34,771	42,689	77,948

⑦ ⑥以外で、目標達成に必要な事業

事業名	事業主体	事業内容等

⑧ 基本施策の現状分析に基づく改革案の説明

評価視点	評価コメント
1 基本施策指標の分析	文化芸術の活動年齢が高齢化している状況においては、安定した数値は確保できるものの、目標達成数値は伸び悩んでいる。これを増やしていくには、子ども世代から文化芸術に触れることができる文化施策の充実と展開が必要である
2 事業構成の適当性(手段として最適か?)	文化芸術の振興には市民一人ひとりの意識と地域力を高めるためにも一定の行政支援は欠かせないと思われる。しかし、文化芸術の継承では高齢化による不安が大きく、新たな手法を取り入れた事務事業の検討が必要であると考える。
3 役割分担の妥当性	法人や団体への委託金や補助金による事業が主である。委託や補助していても、これまでの慣例により行政が中心となっている事業もあることから、団体等への認識の改めと、行政との役割分担を明確にする協議が必要である。
4 総合評価(今後の展開、事業の見直し等)	幅広い年齢層の市民が、多くの文化芸術に触れることができる環境づくりと、市民一人ひとりの文化芸術に対する意識の高揚、更に伊賀市という文化歴史に恵まれた地域性を活かした文化力の向上を目指し、平成25年度までに既存の事務事業の運営の見直しを行い、より充実した施策としたい。また、文化振興事業にかかる費用対効果的には評価は表しにくい、財政的にも事業の役割分担のなかで効率よく事業の展開を図ってきたい。